

# 下水道管路に起因する道路陥没に関する予防対策の事例

- 国土技術政策総合研究所では、下水道管路に起因する道路陥没に関する効果的な予防対策を検討するため、令和4年度に「道路陥没件数が大きく減少している都市」等を対象にヒアリング調査を行い、予防対策の事例を整理。
- 以下の事例では、下水道管路に起因する道路陥没の発生が集中しているエリア等を概ね把握した上で対策を実施。

対策事例	概要
老朽管が多いエリアにおける取付け管を優先的に改築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 老朽管が多いエリアにおける取付け管を優先的に改築することで、道路陥没件数が減少。本管の再構築工事と同時に実施することで対策を効率化。</li> </ul>
他部局との連携による空洞調査等を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路部局との共同による空洞調査及び道路工事に合わせた改築により、道路陥没件数が減少。</li> <li>● 道路管理者や他埋設物管理者との共同（調査箇所の決定及び費用負担も含む）による空洞調査を計画的に実施し、下水道管路に起因する空洞が発見された場合は未然に対策を実施することで、道路陥没件数が減少。</li> </ul>
陶管を無条件で改築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 陶管を無条件で改築することで、道路陥没件数が減少。</li> </ul>
民間開発施設の受入れ条件を設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間開発施設の受入れの増加に伴って道路陥没数が増加したが、受入れ条件を明確に設定することで道路陥没件数が減少。</li> </ul>